

「保護猫活動を通して子どもたちに命の大切さを伝える取り組み  
～人と動物が幸せに暮らせる社会の実現を目指して～」

にゃごねっと代表 鈴木雅子

●事業実施に至る経緯

沖縄では犬猫は野放しでいいとの昔からの風潮があり、終生飼育の定着はまだです。特に2～3ヶ月おきに繁殖を繰り返す猫は街に溢れ、野垂れ死か轢死として子どもたちの目の前で無残な死体を晒しています。地域で暮らす猫の飼育をめぐる住民とのトラブルや虐待などの残酷な事件も多発しています。

さらに、犬猫の殺処分数は地域の犯罪率や自殺率にも関連し、子どもたちへ精神衛生上の悪い影響を与えていると言われています。大切な命が簡単に遺棄される現状は子どもたち自身に負のメッセージを与える可能性があり、子どもたちが猫の死体をつついて遊ぶ光景さえみられ、命を粗末にする行為として強い危機感を抱きました。

このままでは命の軽視、教育環境の劣化が放置され、何の問題の解決にもならないと考え、私たちにゃごねっとは2020年より1)TNR(捕獲・避妊去勢・リターン、以下、TNR)活動、2)里親活動、3)動物飼育の知識とマナーの啓発活動の三つの活動を行ってきました。私たちの展開するTNR活動、里親活動、啓発活動は、これまで主にボランティアの寄付等で賄われていたため、資金面での課題がありました。TNR活動および里親活動に資金の多くが費やされ、私たちの考える保護猫活動の核となる啓発活動がいまだに充実させられていなかったため、今回のおきぎんふるさと振興基金を活用し、啓発活動を展開し、保護猫活動の情報発信と講話を通して子どもたちに命の大切さを伝えることを目指しました。

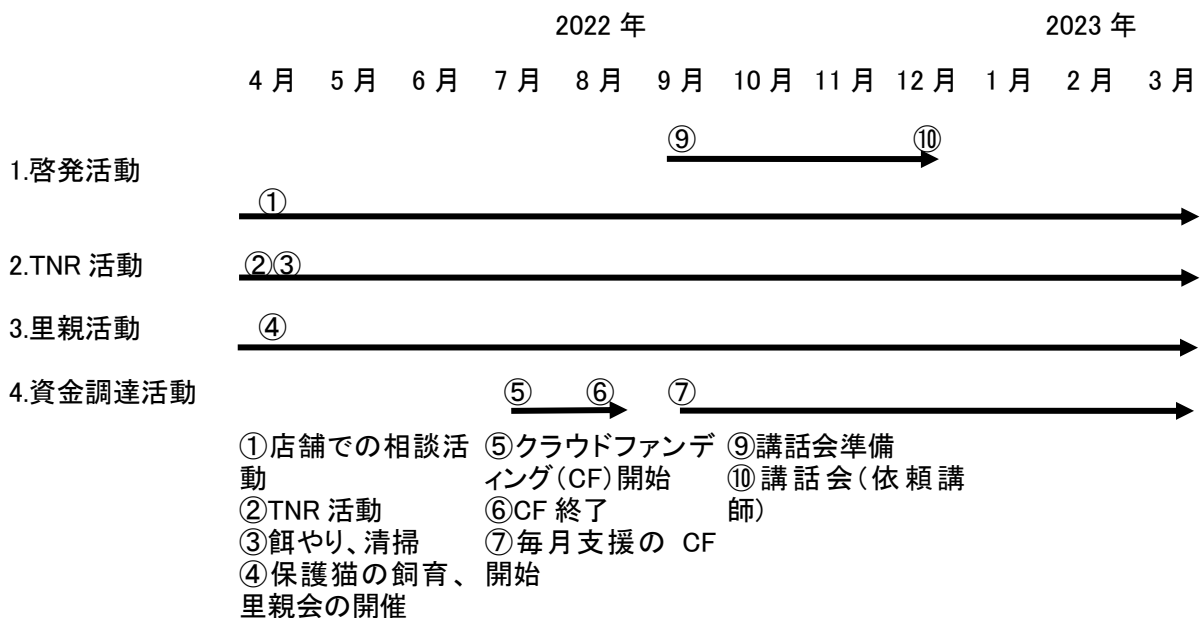
●にゃごねっとについて

2020年より鈴木が代表を務めるにゃごねっとは、名護市営市場で市民の情報発信・交換の場である「アトリエ・はーべーる」の店舗を拠点として活動しています。

にゃごねっとは、名護市内で飼い主のいない猫のための個人のボランティアグループです。名護市内で外猫ケアや餌やり、環境清掃をしています。その他、主な保護猫活動として、1)TNR活動、2)里親活動、3)動物飼育の知識とマナーの啓発活動を展開しています。にゃごねっとはこれら3つの活動を通じて、飼い主のいない猫たちの数を減らすことだけでなく、地域で暮らす猫と人間のより良い関係性を構築することを目的としています。

にゃごねっとには現在45人のボランティアが所属しています。活動の分掌として代表、副代表、会計をおき、各メンバーはTNR部、防犯部、里親部、掲示板係、パトロール部と各々のできる範囲での役割を担っています。

表1 各活動の実施実績



## ●実施内容

### 1. 動物飼育の知識とマナーの啓発活動

#### ①情報提供

店頭に来られた、猫を含む動物の飼育で困っている市民に対し適切な情報を伝えました(2022年4月～2023年3月までの総数360件)。相談内容としては、飼育や医療に関すること、保護の要請に関すること、里親探し、TNRに関すること、譲渡に関すること、地域での猫が虐待事件に関すること、不明猫の捜索に関することでした。また、不適切な飼育をしている市民に対し、適正な飼育に関する知識を伝えました。3件の取材対応も行いました。

- ・命どう宝 <https://www.qab.co.jp/news/20210706139358.html>
- ・17のタネ <https://www.qab.co.jp/seeds/> #91「外猫ケア」3月21日放送



テレビ取材の様子



琉球新報にてにゃごねっとの記事が載る

#### ②獣医師の講話

獣医師の講話を企画していましたが、スケジュールの都合上今回は実施できませんでした。

#### ③「やなえもん」さんによる講話「いのちの授業」in リサイクルランドにゃ～ご開催

2022年12月18日午後1時から、名護市がじゅまる緑地にて、市内でフリーマーケットを毎月開催している団体であるリサイクルランドさんの場を借りて開催しました。約50名の親子や一般市民が参加しました。ちょうど、その日の朝に遺棄された子猫をレスキューした母子も参加されました。やなえもんさんより、小さいいのちの大切さや人間としての責任を自らの体験を交えた話を話されました。毎回サポートして下さるリサイクルランドのスタッフや市民ブースの皆さんも熱心に彼のお話に聴き入っていました。今後もやなえもんさんと一緒に力を合わせて「小さいいのち」を幸せに出来る沖縄県にしたいと強く約束をしました。



#### ④啓発活動

チラシやポスターを作成し、アトリエ・は一ペー一店内での掲示、及び来店された方に配布しました。また、Facebook や Instagram にて、動物の飼育に関する情報を適時発信しています。



店頭に掲示板(迷い猫関係、猫飼育に関する情報等)、募金箱の設置

#### ⑤陳情・要請活動

沖縄県自然保護課より出された「沖縄県動物の愛護及び管理に関する条例」骨子(案)」に対するパブリックコメントへの意見を提出しました。また、県議会議員へは「沖縄島北部における生態系保全等のためのネコ管理・共生行動計画(案)」の事業費用内訳の公表や費用対効果の検証、県知事の公約にあげた「殺処分ゼロ」の実現を要請しました。

#### ⑥県全体での「外猫ゼロ」アクションプラン撤回運動の立ち上げ

2023年3月22日「全島島猫会議」立ち上げ、設立宣言の発表を行いました。加えて、「外猫ゼロ」アクションプラン撤回署名活動を開始しました。さらに、4月22日を「島猫の日」と制定しました。



↑中山公民館にて全島島猫会議立ち上げの発表を行った



←2023年3月22日全島島猫会議立ち上げについての新聞記事



← ↑「外猫」撤回署名キックオフ・しまねこゆんたく会開催の様子

## 2. TNR 活動

財団法人どうぶつ基金からの行政枠で配布される無料チケットを活用し TNR を行いました。また、捕獲した場所に戻した後、地域の餌やりボランティアと連携し、餌やりやその後の環境清掃、見守り活動を行いました。

表 2 2022 年度の月毎における TNR 実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
匹	6	7	10	6	0	0	0	14	15	6	0	11	75



↑ TNR 時の様子 ケージに入れた保護猫

## 3. 里親活動

### ①里親会

里親会にはやごねっとで保護している猫の譲渡だけでなく、個人で猫を保護している方も参加した、市民のための猫と人の出会いの場です。毎週土曜日の正午から午後 4 時まで実施し、第二、第四土曜日には古本市やバザーも同時開催しています。しかし、屋外なので、天候に左右されて開催を見合わせる事もありました。

里親会には各地から多くの方々が参加するため、参加猫の総数はカウントし切れない程ですが、1 年間で 100 匹以上は参加し、50 匹以上は無事新たな家族として迎えられています。里親会は動物たちの出会いの場であると同時に、飼育や医療相談の場です。また、地域の子どもたちの楽しい教育の場として好評を得ています。

表 3 2022 年度の月毎における里親会開催実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
開催回数	5	3	2	5	4	4	3	4	3	4	4	3	44



← ↑ 里親会の様子。月 2 回は古本市も開催している。  
通りがかった子どもは猫に興味をもち、触れ合う様子がある。

## ②猫の保護活動、譲渡

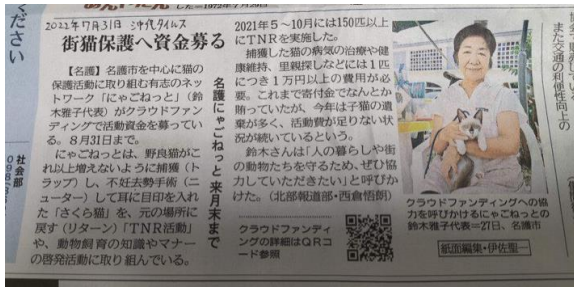
にゃごねっとで保護した猫たちには初期医療を受けてもらい、また、譲渡先については必ず身分証明書や飼育環境の確認を怠らず、確かな里親さんや飼育環境が良好である先へのみ、誓約書を交わして譲渡となります。また、先方の環境問題も考慮して、1週間～10日間のトライアル期間を設けて、不適切な場合はお断りもします。

単なるペットとして安易な扱いをしないように、一生の家族として迎え、楽しい事も苦しい事も共にし、いのちと向かい合う事の大切さを知ってもらう事を目的としています。

## 4. 資金調達活動

2022年7月末より campfire でのクラウドファンディング「猫たちに生きる権利を与えて下さい。外猫のケア & TNR 活動にゃごねっと」を開始しました。約1か月の期間で621,000円(手数料、振込料含む)の支援をいただきました。

クラウドファンディング終了後も継続的にサポートしていただけるように、同サイトのクラウドファンディング community を9月に立ち上げ、2023年6月現在10名の方に毎月支援していただいています。2022年度中にその他の助成金への応募は時間の関係上できませんでした。



↑ 琉球新報、沖縄タイムスへクラウドファンディングの記事を書いていたいた。

←マンスリーサポーター募集のチラシ

●考察

日々の活動の中での市民への日常的な啓蒙はほぼ達成出来ているが、問題は沖縄の風土や歴史に根差した動物飼育環境の土台まで届かないことです。食糧の一部としての「家畜」、人生の伴侶としての動物たちの存在、かつて「使役犬」同じように今もやんばるではネズミやヘビ対策のために猫は活躍しています。それら全てにおいて「福祉」の視点は必要であり、それこそが私たちの目的とする「命への感謝」が基礎ではないかと考えます。沖縄では人の命の軽さと比例して、これら動物たちの命の軽さは想像を絶します。自らを大切にできない者は果たして、他の命を大切には出来ません。

子どもたちが身近な命と向き合う事は、楽しいばかりではなく、苦しみも悲しみも共に命の現実から学び、成長する大きな契機になるはずで。

この基金に応募した当時の沖縄県行政による動物の愛護管理施策への期待は大変大きかったです。ようやく現場に目を向けて、県民と一体となって沖縄に相応しい施策が実行されると思っていましたが、2022 年末に沖縄県自然保護課より出された「沖縄島北部における生態系保全のためのネコ管理・共生行動計画(案)」のパブリックコメントの内容に驚愕しました。中でも「ずっとやんばるずっとうちネコアクションプラン」では、今後 10 年をかけて本島北部における屋外にいる「外猫」をゼロにするという、余りに現実の課題からかけ離れた乱暴な計画が実施されようとしていました。

その計画の大義名分は 2021 年の「世界自然遺産」に登録された生態系の希少種を保護するために、その生存を脅かす存在(どれだけの影響が起きているかの、科学的に定量的に証明されていない)として捕食動物(あくまで一般的な)である猫を「ノネコ」とカテゴリーし、既に実施されている「外来生物駆除」事業としてのマングース駆除の次のターゲットとして「猫の駆除」が大々的に始まろうとしています。

このような事態の中で、私たちの地道な保護活動や啓蒙活動は大きな危機の前にあります。沖縄の歴史的文化的な動物との共生のあり方に、国際的な動物福祉の視野を加えて、独自の「命どう宝」の島人とイチュムン(生きもの、動物)の未来に向けて、私たちの小さな歩みの道を模索しています。

## ●今後の展望

上記のような事態の中で、県行政はパブリックコメントの反響の大きさに鑑み、今年度前期からの計画を年度半ばからに延期しました。しかし、その中身も予算も変わっていません。年間 7000 万という莫大な予算が果たして本来の沖縄振興に寄与する中身であるのか？このような乱暴な「ネコ管理計画」が、沖縄県民の合意によるのか？沖縄県民の望む「猫保護条例」に資するのか？を問うために、2023 年 3 月に個人ボランティアが集い「全島沖縄島猫会議」を立ち上げました。4 月からはこの「ネコ管理アクションプラン」撤回の署名活動も開始しています。

今後は、沖縄県議会において、これらの施策の中身を問い、県民世論に働きかけて、真に沖縄社会に適した人と動物との共生のあり方を追求するプロジェクトを展望しています。

## ●謝辞

沖縄の豊かな自然と文化が息づく名護の市場の一角で始まった小さな試みを応援して頂き、とても心強く、また、新たな課題の前にも、たじろぐことなく向かう勇気を頂きました。

まだまだ始まったばかりですが、私たちの育んで来た「いのちへの共感」は確実に沖縄の未来を担う人々に広がっていることを実感しています。次はもう少し大きな一歩を踏み出して、皆さまに再会出来ることを楽しみにこれからも頑張ります。ありがとうございました。